

困りて、彼の纏綿的衣服に代ふるに、僅に襦袢形の粗服を作り出せしも、未だ袷に製し、綿を入れるゝの法を知らず。是に於てか其の寒冷を防がん爲め、彼等が畢生の才能を搾りたるもの即ち彼の携帶爐なり。這は長き手を有する小さき籠の中に、土製の火入を容れ、終始之を其の股前に提げ、僅に温を取りて寒を防げり。嗚呼活達磨縦ひ蠻的の然らしむるも、佛縁淺からざる此地に於て、斯る狀貌に接するは亦奇なりと謂はざるべけんや。

家屋は木材及石を以て造り、疎粗防寒に適せず。但し此附近は冬季至て短しと云ふ。

二十六日午前七時四十分發、八時四十五分一橋を過ぎて左岸、九時三十分復た一橋を渡りて右岸を辿り、正午十二時カンガン(人家約十戸)を經午後二時三十五分又復た一橋を通じ同四時二十五分行程約二十四哩にして、ガンドルワに着す、人家十三戸に過ぎず。沿途山は依然松樹多く、間々蒼楓及果樹を交へて繁茂し、部落相望み、米田多く、始めてスリナガルの廣野に出でたり。氣温午前三十四度、午後五十五度。

五、スリナガルの「ハウス・ポイント」